



～貿易大学（ベトナム）～



～僑光科技大學（台湾）～

アジアでの位置づけを模索して

中国を筆頭に、アジア諸国の発展が目覚ましい。こうしたアジア情勢の中で、いち早く先進国入りを果たした日本の役割は何か。本学園は、日本の一学府として担えることは何なのかを重く受け止め、他アジア諸国との学術交流を積極的に推し進めている。以下は、2010年度に本学園が迎えた他アジア諸国の学術機関との交流の軌跡である。

■青森中央学院大学

ベトナム貿易大学と共同教育プログラムの調印式（4月）/タイ・泰日工業大学サマープログラム受入（5月）/台湾・僑光科技大學と国際交流協定締結（8月）/上海大学国際交流学院と学術交流協定締結（10月）/台湾・福瑞社區發展協會訪問団本学訪問（10月）

■青森中央短期大学

タイ王国・チュラロンコン大学看護学部代表团来校（4月）/タイ王国・チュラロンコン大学看護学部と学術交流協定締結（10月）/上海大学国際交流学院と学術交流協定締結（10月）/【独立行政法人国際協力機構青年研修事業】フィリピン母子保健実施管理コース研修員の受入（11月）

■青森中央経理専門学校

ブラジルより県海外技術研修員受入

■中央文化保育園

タイ王国・チュラロンコン大学看護学部代表团本保育園を見学（8月）/韓国訪問団との交流（8月）/フィリピン母子保健実施管理コース研修員による本保育園の見学（11月）

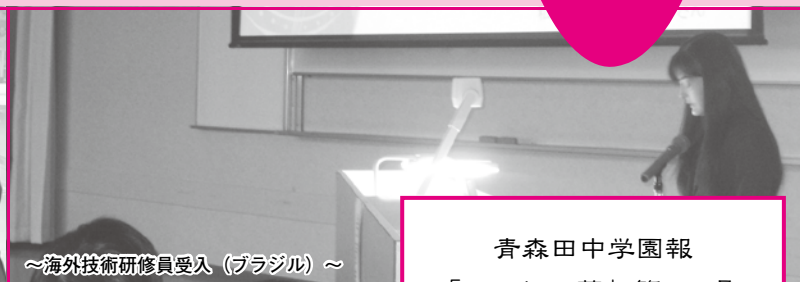
*チュラロンコン大学は、タイで最も古く権威のある大学である。

こうした盛んな相互交流は、本学園内の活動に留まるものではなく、地元地域社会を巻き込んだ包括的なものとなっている。例えば、チュラロンコン大学の看護学部代表団の訪問の際には、短期大学看護学科教員との意見交換の他に、青森慈恵会病院や芙蓉会病院、特別養護老人ホーム三思園等を視察し、地域の医療・福祉施設を見学している。また、独立行政法人国際協力機構（JICA）青年研修事業としてフィリピン共和国の保健医療の将来を担う16名の保健医療関係者の受入に伴う研修では、青森県の周産期領域の臨床現場の視察、看護師・助産師の教育制度に関する講義、公的機関による母子保健政策現場の視察を主なプログラムとして実施している。こうした個々の活動が、他アジア諸国の発展へと何らかの意味でつながっていくことを本学園は願い、またこうした活動を通して得られるものは、地元地域社会の発展へと還元されていくのである。

こぶしの花



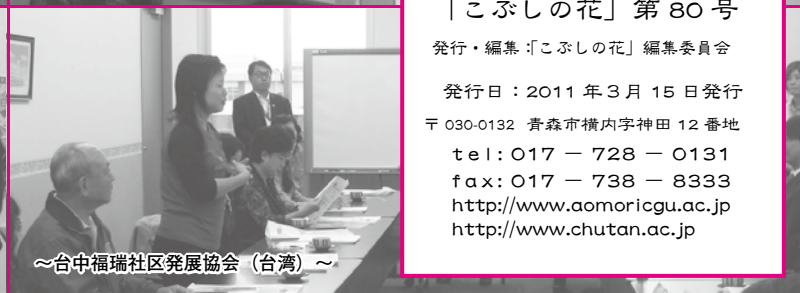
～チュラロンコン大学（タイ）～



～海外技術研修員受入（ブラジル）～



～JICA研修（フィリピン）～



～台中福瑞社區發展協會（台湾）～

青森田中学園報

「こぶしの花」第80号

発行・編集：「こぶしの花」編集委員会

発行日：2011年3月15日発行

〒030-0132 青森市横内字神田12番地

tel: 017-728-0131

fax: 017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

学 園 共 通

学 内 企 業 就 職 セ ミ ナ ー

今日の就職環境は、極めて厳しい状況にある。このため、他大学より早い12月7日に学内企業説明会を開催した。参加企業の減少が懸念されたが、キャリア支援委員会、キャリア支援センターの早くからの取り組みもあって、神奈川・秋田両県警など新たに参加した企業等もあり、これまでを上回る参加企業数となった。その中には、今年度卒業生の面談をも受け付ける企業が10社程あり心強い限りであった。学生諸君の説明を受ける態度、質問も真剣で、企業ブース訪問数も平均5～6社と例年より多かった。参加企業からの学生諸君に対する評価も高かった。今後も就職に結びつく実質的な説明会にしていきたい。
(キャリア支援センター長 平出 道雄)

【青森中央学院大学】

10回目となる学内企業セミナーは、厳しい雇用情勢の中でも昨年並みの規模を維持して開催された。本学のセミナーは、参加企業をはじめとする関係者から、「会場に足を運ぶだけで企業ブースを訪問しない壁の花は見られず、皆熱心に参加している」との高い評価を受けた通り、学生たちからはできるだけ多くの企業の説明を聞こうという意欲的な姿勢が窺える。こうした真摯さに加え、さらに自分を自信をもって売り込む元気をアピールできれば、本学学生の評価を一層高められよう。来年度以降参加する後輩学生諸君に期待したい。



【青森中央短期大学】

青森中央短期大学からは食物栄養学科の1年生68名を中心に、2年生を含め総勢80名が参加した。3時間にわたるセミナーでの一人あたりの平均訪問企業は4.94社と昨年並みであり、中には7社を回りきった学生もいた。例年のような給食委託企業や外食産業一辺倒でなく、昨年度は不参加だった医療・福祉系の法人3社を含め、販売、金融、さらに短大生の採用予定のない企業でも話を聞く場面が見られた。事前指導のせいかもしれないが、説明の途中でも空席があれば積極的に話を聞きにブースに入る学生が多く感じられた。入学した年に就職活動に動き出さなければならない短大生のハンディを乗り越えるための「初めの一步」を実感できる一日であった。



【専門学校】

青森中央文化専門学校、青森中央経理専門学校の学生達は、本学体育館で実施された恒例の学内企業セミナーに参加した。

専門学校では就職活動の一環として、1年次よりキャリアサポートを始めている。職場実習などを経て社会人となる学生達にとって、実際に企業の人事担当者の話を聞き、就職について改めて深く考える、貴重な時間となった。

企業担当者から就職活動に於いて「自己分析が大切なのはなぜか」「就職するまでだけでなく、就職してからの自分の在り方を考えておくことも大事」という話を聞き、就職難と言われる厳しい状況下で自分がどのように活動を進めるかの指標となった。



青森田中学園感謝祭 ～ 針供養 ～

2月8日、針供養にちなんで恒例の青森田中学園感謝祭が行われた。

青森中央文化専門学校では、針への感謝と裁縫技術が上達するという祈りを込め、この日1日針を休め、古針や折針を柔らかい豆腐に刺して供養する。学生たちは、自分達が制作した衣装を身にまとい、針に感謝の意を込めて詩を詠んだ。

また、園児たちは日頃使っているオモチャに感謝の言葉を述べ、またその他各施設の学生たちは学業に欠かせない教材を祭壇に奉納し感謝の気持ちを表した。

ブラジル出身の県海外技術研修員、佐藤末美アルベスさんが、「感謝の心は万国共通」と母国で培った感謝の心を日本語で述べた。

古くから伝わるこの年中行事と感謝の心が、次の世代へと受け継がれるように願いたい。



学生会館スポーツ大会

11月6日、学生会館恒例のスポーツ大会が、市内のラウンドワンにて行われ、80名が参加した。

ストライクには悲鳴のような歓声が上がり、一斉スタートのストライクゲームでは、緊張のあまり、尻もちをついたり、

ボールを落としてしまったという場面も。今回はこぶし会館の元気なチームが優勝した。



キャンパスイルミネーション実施

凍てつく冬の夜、通行人の心を少しでも和ませたいとの思いから始めた観光通りのシンボル・イルミネーションも今年で9年目を迎えた。今年は冬に咲く「桜」をイメージしたピンクがイルミネーション・カラーとなり、約31,000個のLEDを使用した。毎年楽しみにしている方も多く、沢山の住民が12月1日の点灯式に参加した。なお、式では附属幼稚園の園児達が中心となり、クリスマスソングの合唱、ハンドベル演奏が行われ、最後にプレゼントを持ったサンタが登場すると、子供たちは大喜びで、サンタに触ったり、抱きついたり、大いに盛り上がった。

(イルミネーションは2011.1.31まで毎夕4時～夜10時の間点灯した)



青森中央学院大学図書館情報センター主催 『伊達政宗の支倉常長・慶長遣欧使節関係海外史料展』及び 大泉光一教授記念講演会 『支倉六右衛門常長 慶長遣欧使節の足跡を追う』

さる10月13日から開催された『伊達政宗の支倉常長・慶長遣欧使節関係海外史料展』が11月12日、好評のうちに幕を閉じた。10月30日には、「支倉六右衛門常長 慶長遣欧使節の足跡を追う」と題して行われた本学大泉光一教授の記念講演会もまた聴衆を魅了するものであった。

展示資料は、教授自身がライフワークとする慶長遣欧使節に関する積年の研究のために、国内はもとよりメキシコ、スペイン・イタリアなど支倉常長の足跡を辿るプロセスの中で収集してきた極めて歴史的価値の高いものである。今回の特別展は、図書館情報センターが、これらの貴重な資料を地域住民へ公開すべく、教授の同意を得て、実現させたものである。

大泉教授は日本における危機管理のパイオニアで、数多くの書物を著され、またマスコミにもよく知られる存在である。教授はメキシコ滞在が10数年に及び、この間、メキシコ1国にとどまらず、南米全域にわたって、各種学術機関において要職を務められている。帰国後は、日本大学教授を長く務められ、2007年より本学にて教鞭をとられている。危機管理で名をなされる一方で、ライフワークとされる支倉常長についての研究成果を多くの著書にまとめられ、2007年には和辻哲郎文化賞を受賞されている。

なお教授は、遠藤周作、城山三郎などの国民的作家とも親交があり、慶長遣欧使節の資料と合わせて、これら作家の教授宛の自筆書簡なども展示され、彩りを添えた。



大泉教授歴史解説

～BS朝日放映「歴史仮想ミステリー if… 日本はこう動いた！」～

番組では、伊達政宗の幕府転覆のための使節派遣の背景について、大泉教授が歴史解説を行った。放映のために、スペインにてロケが行われ、大泉教授が随行し、現地での解説の撮影となった。

※ 2月27日夜9時～10時54分放映 出演者：坂東三津五郎・高橋英樹他

青森中央学院大学

平成22年度の修士論文、出そろう

このほど大学院地域マネジメント研究科の22年度修士論文6編が提出された。どれもA4判で数十ページから百ページになる力作である。

論文タイトルに含まれているキーワードを見ると、整理解雇、多民族国家、人的資源管理、危機管理、多国籍企業、女性の労働意識……となっていて、地域マネジメント研究科らしい幅の広さと深さが読み取れる。特に外国人留学生が日本語で大部の論文を書き上げたことは、いくら褒めても褒めすぎることではない。また、研究指導にあたった先生方の気迫を感じることができる。

このあと修士論文に関する「最終試験（口頭試問）」を受けて合格すると、晴れて修士の学位が与えられる。

（地域マネジメント研究科長 菊地和聖）

研究成果発表会・卒業論文作成経過報告会

昨年度に続き、4年生全員に卒業研究の発表機会を設けるという趣旨から、12月15日に卒業論文作成経過報告会が行われ、つづく1月19日には、研究成果発表会が行われた。

卒業論文作成経過報告会では、4年生が9グループに分かれ、研究経過の報告を行った。論文提出前であったが、会場の3年生や教員との間で活発な質疑応答がなされるなど充実した報告会となった。今年度の新しい試みとして、参加学生が研究テーマ・内容と表現力の2項目について評価を行い、それを参考資料としてグループ代表が選考された。

研究成果発表会では、グループ代表と指導教員推薦の9名（留学生4名）が発表を行った。いずれも時宜にかなった現代社会の問題や課題を取り上げた充実した研究であり、大学4年間の学習の集大成に相応しい発表内容であった。最後に学長より、研究発表の意義と発表者に対する講評が述べられ、発表会は終了した。（学務委員長 大野和巳）



「新たな雇用創出のために、コミュニティに根ざした社会的企業を含めたNPOの役割」

12月10日、7号館712講義室において、「新たな雇用創出のために、コミュニティに根ざした社会的企業を含めたNPOの役割」と題した公開講座が開かれた。このシンポジウム形式の講座は、『青森県における労働者の雇用を考える』と題し、労働問題をテーマとして始められたもので、今回はシリーズ第6回目となる（コーディネーター：尾崎正利教授）。今回の内容は、地域コミュニティに根ざしたNPO組織が新たな雇用や職業訓練の場を提供し得るか、その可能性を論議するもので、一般・学生の聴講者からも盛んに質問が出ていた。



平成22年度「世代の架け橋」講座開催

平成19年度より、地域における様々な課題について大人と若者が一緒に学ぶ公開講座「世代の架け橋」を実施している。22年度の2回目は11月に青森県立田子高等学校で開催され、生徒や町民らのべ60人が参加した。講師は、元明治大学文学部教授で、国文学者の大野順一氏、本学経営法学部の平出雄教授の2氏が務め、2回にわたって開催された。

大野氏は「芭蕉の耳ーあるいは閑かさについて」という演題で、忙しさの中に現代人が忘れたものについて講演、講義後の意見交換では、高校生から、「国文学がこれほど面白いものとは知らなかった」、「なじみのなかった芭蕉をよく読んでみたい」など驚嘆の声が多数上がった。

平出教授は「元気タブコブを求めて」と題して、田子町の歴史及び現代の町の産業振興について、経済学の視点からの分析を交えながらの講演であった。終了後の高校生と大人の意見交換では、「にんにくの加工品をインターネットで販売しては?」「身近なものが観光資源だと知った」など、実際の関心を示す意見が多く出された。

今後もこうした活動を通じて、地域貢献を果たしていきたい。

観光人材養成セミナー ～青森の再発見～

地域マネジメント研究所では、12月6日、「あおりツーリズム人づくり大学はやて事業」の一環として、郷土をよりよく知ろうという地域再発見セミナーを開催した。講演者である久留米大学の久留米大矢野栄次教授は「津軽の再発見」と題して、明治期の社会風土や官僚人脈、太宰治の生れ育った津軽と郷土の三味線文化が織り成す世界を、小説「津軽」と軽妙に関連づけながら語った。また、同じく講演者で、きものスタイリストの第一人者である京香織の富田伸明社長は、日本の伝統美の象徴の1つである「きもの」産業が現在消滅の危機に瀕していると語り、津軽からの新たなきもの文化を発信すべきとの提案を受けた。なお、当講演では本学の学生がモデルとなり、舞台上で数百万円もする十二単などをまとうという一幕もあった。



同窓会 懇親会 開催

11月20日、青森国際ホテルにて青森中央学院大学同窓会の総会ならびに懇親会を開きました。今年度の同窓会事業として、野球部やサッカー部などのサークルが1部リーグに昇格を果たしたということで、今後も一層活躍してほしいとの願いから、助成金を授与することが承認された他、大学と共催で講演会などを開催するための準備を進めていくことが承認されました。

懇親会では、卒業生が近況報告や当時の思い出を語り合い、1期生の中では「1期生の会」を是非やりたいという話題も出ました。また、結婚の報告も飛び出し、出席者全員から祝福される場面もありました。



同窓会の総会及び懇親会は毎年11月頃に行っておりますので、同級生や先輩後輩をお誘いの上、気軽にご参加下さい。
(青森中央学院大学同窓会
会長 岩渕 眞之)

青森市自治基本条例検討委員会の委員として



私は昨年8月から、青森市自治基本条例検討委員会の委員を務めています。自治基本条例とは、青森市のまちづくりを進めるためのルールを決めた「まちの憲法」です。その条例の制定に向けて、

市民委員16名で、月に2回の市役所での会議と、ワークショップの研修等を行っています。様々な年代、職業の委員の皆さんとの交流を通して、学生の立場で、地域の為に出来ることは何なのか、刺激を受けながら考えています。

(経営法学部2年 佐々木 絵理)

官学連携 青森県基本計画 「学生発未来への挑戦フォーラム」

12月22日、県、青森中央学院大学、弘前大学主催による「学生発未来への挑戦フォーラム」が開催された。フォーラムでは本学留学生が青森県企画調整課と連携し研究してきた「外国語のメニューづくりサポート」について、その成果を発表した。

続く「青森の元気づくりに風をおこせ」と題したパネルディスカッションでは、大谷真樹氏（八戸大学・八戸短期大学総合研究所長、ヤフーバリューインサイト創業者）、柳澤泉氏（NPO推進青森会議常務理事）と共に本学留学生がパネリストとして、青森を豊かな生活創造社会にすること等について、意見を述べた。



カタリバ・サークル東京視察

昨年11月24日、カタリバの発祥地である、東京のNPOカタリバの視察が行われた。

視察では川崎市立川崎高等学校の定時制企画を見学し、県内で行っている活動との違いや、大学生の高校生に対する意識の高さなどにとても驚いていた。また、企画の見学を通して東京でカタリバの活動をしている大学生や社会人とも交流を深め、学生達にとって、とてもいい経験となったようである。

今回の経験を生かし、大学内でのカタリバサークルの充実を図り、新しいメンバーを増やし、魅力を沢山のの人に伝えること、またカタリバを通して得たコミュニケーションの知識や経験を生かし、これからは大学内外での活動を積極的に頑張っていきたいと決意を新たにしていた。

OB通信

拝啓 青森中央学院大学様

マレーシアからの留学生チャーです。

現在、株式会社オウケイウェイヴに勤めています。私は2005年秋、青森中央学院大学に入学しました。入学時にすでにマレーシアの先輩が沢山いて、言葉の壁や習慣の違いを感じることもなく、1年を過ごしました。さらに、FSAの活動に参加し始めると、学生のみならず、青森地域の方と出会うことができ、私の思い出のアルバムのページも増え、大学生活の楽しさを実感できました。わたしのアルバムは、「日本」ではなく「青森」の思い出です。

卒業後、東京へ就職し、6ヶ月経ちます。弘前城と合浦公園でお花見した春、疲れても跳ねたねぶたと締めの花火大会の夏が、一人でこつこつ頑張る東京では、余計懐かしいです。

会社の人には、“私はマレーシア人ですけど、4分の1は青森の血が流れています”と話しています。駅で青森新幹線開業のポスターや、CMを見る度に鳥肌が立ちます。行く度に変わる青森は私の故郷のように感じられます。将来、自分は母国に帰るかもしれませんが、老後は青森で生活したいと思っています。

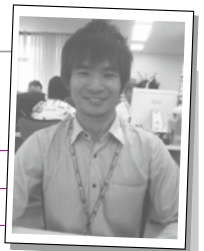
留学生の後輩達へ、日本での就職活動は諦めずに頑張ってください！成果はきっとついて来ます！私にチャンスを与えてくれた青森中央学院大学、ありがとうございます。

敬具

チャー・テン・チェン(マレーシア)第9期生

オウケイウェイヴ(OK Wave)ウェブサイト

<http://www.okwave.co.jp/>



【運動部の活躍】

祝・一部昇格!!

～野球部～

初めて一部に昇格し、レベルの高いチームと試合をするのは緊張と学習の連続でしたが、その分、自分たちの技術、メンタル等が1試合ごとに成長していくのを実感できました。結果は一部残留となりましたが、来季はさらに上を目指し、Aクラス入り、そして優勝ができるように、日々レベルアップを図っていきます。

(経営法学部2年 櫻庭 寛明)

～バスケットボール部～

バスケットボール部男子は、9月の北奥羽二部リーグで優勝し、また、10月に行われた一部・二部入れ替え戦では、福島大学と青森大学に勝ちました。われわれ選手の頑張りと多くの方々のご支援のお陰で、一部リーグに昇格することができました。これからは、一部リーグでも良い成績を残していけるよう、日々の練習に取り組んでいきたいと思っています。

(経営法学部2年 東海林 光)

～サッカー部～

サッカー部は今年度、東北地区大学二部リーグを無敗で優勝すると共に、目標であった「一部リーグ復帰」を果たすことができました。部員数は15名と決して多いとはいえ、苦戦を強いられましたが、部員一人一人が高い意識を持ち、少数精鋭で努力した結果だと思っています。来年度は「一部リーグ残留」を目標とし、より一層日々の練習に励んでいきます。

(経営法学部3年 菊池 亮哉)

同窓会より サークル活動助成金贈呈

青森中央学院大学同窓会から学生のサークル活動の支援のために助成金の贈呈が行われた。サークル活動の盛んな本学では、従来の体育・文化系のサークルに加え、新しいコンセプトの下、活動するサークルが続々と誕生している。目覚ましい活躍をしているサークルも少なくない。同窓会の助成金は全てのサークルの強化・一層の活性化のために役立てられる。



カーリング部

全日本大学カーリング選手権大会初代王者

今シーズン、様々な全国大会へ参加、第25回ユニバーシアード冬季競技大会兼強化合宿競技会男子の部優勝、第19回日本ジュニア・カーリング選手権大会出場、第1回全日本大学カーリング選手権大会優勝と、少しずつ力をつけてきていると感じています。また、全国のレベルの高さ、技術面等、大会参加によって学ぶことも多く、今後の練習にも力が入ります。今後は、全日本カーリング選手権大会への出場を目指し練習に励みます。

(経営法学部2年 木村 祥大)

硬式テニス部

2010東北学生選抜室内テニス選手権大会 男子 シングル優勝・ダブルス準優勝

今までやってきたことが、このような結果として実ったのは、日々の練習と、周りの人々の助けがあってこそのものだと思います。技術的にもメンタル的にも、全国レベルではまだ通用しないので、良い点は今まで通り活かし、反省すべき点は心して改善していきたいと思います。3月からシーズンが始まり、大事な試合が続きますが、今後はもっと良い結果を出し、全国で1試合でも多く勝てるように、今まで以上に練習に励んでいきたいと思います。

(経営法学部2年 川越 史)

ボウリング部

第42回全日本大学個人ボウリング選手権大会優勝

2月22～24日、京都のMKボウル上賀茂で行われた、第42回全日本大学個人ボウリング選手権大会に出場し、初優勝を飾ることができた。ナショナルチームに所属する選手や有名大学が出場する本大会への出場は大いに緊張したが、入賞を目指して挑んだ。試合では、予選から上位に食い込み、準決勝・決勝戦へはトップで通過することができた。レーンの状態がそれぞれ異なっていたので、練習時に即座に状態を判断し、投げ方を変えて行く事が求められ、気を使う場面も多かった。

決勝は緊張したが、自分の力を目一杯出しきることができた。仲間の応援もあり、自分を信じて全21ゲームを投げきり、優勝することができた。国内でトップクラスの大会での初優勝ということで、本当に満足のいくボウリングだった。この経験はとても大きなものになったし、私自身の自信にもなった。

来年は人数も増え、チームも結成できるので、個人はもちろん、団体戦でも結果を残せるよう頑張りたい。

(経営法学部2年 根深 滯)

全日本新人選手権大会入賞

10月中旬、京都のキョーイチボウルで行われた全日本新人選手権大会に出場した。結果は4位で入賞することが出来たが、メダルにはあと一歩届かなかった。今回の大会では、体調管理が上手くいかず、内容的にはあまり良くなかったが、悪いコンディションにもかかわらず今までの大会の中で一番良い結果だったので、とても嬉しかった。しかし、メダルまで届かなかったのも事実なので、これからも一層練習に力を入れて頑張っていきたい。

また、4月からは新入部員が増え、ますます活気づいてくるので、男女共に日本一を目指し、練習に励みたいと思う。

(経営法学部1年 工藤 純一郎)

国際交流センターより

中国・上海大学国際交流学院と学術交流協定締結

10月23日、中国・上海大学国際交流学院の楊靜副院長、黃浩先生、江国強先生が青森中央学院大学を公式訪問し、学術交流協定を締結した。本学学生が、平成14年から短期中国語研修のため留学していた実績に基づき、さらに交流を発展させるべく協定を締結することになった。



在札幌米国総領事館総領事が本学を表敬訪問

10月14日、在札幌米国総領事に着任したジョン・リース総領事が、着任挨拶のため本学を表敬訪問した。

在札幌米国総領事館とは、昨年も本学地域マネジメン



ト研究所との共催で公開講座を開催しており、学生の海外留学や社会的情勢、国際交流推進など多くの面で意見の一致をみた。

国際交流活動

外国人日本語スピーチコンテストに出場

11月14日、青森市国際交流ボランティア協会（AIVA）主催・第15回外国人日本語スピーチコンテストに留学生6名が出場、「東北新幹線新青森駅開業」をテーマにスピーチし、3名が次の賞を受賞した。



- 銀賞（第2位） Chong Mei Kem（マレーシア）
 ■審査員特別賞 Foong Mei Ling（マレーシア）
 ■審査員特別賞 范一琳（中国）

クリスマス・パーティー

12月18日、FSA (Foreign Student Association) サークル主催によるクリスマス・パーティーが開催された。

学生、教職員、地域住民と、多くの参加者があり、留学生と交流がある青森市内の高校生を多数招待し、ゲームあり、パフォーマンスありの楽しい交流の場となった。



国際語学サポートセンターからの派遣事業

平川市立碓ヶ関小学校

11月8日、「インターナショナルタイム」にベトナム人留学生2名を派遣、ベトナムの文化や伝統、歴史などを紹介し、小学校の「国際理解教育」事業に協力した。

青森県立青森西高等学校人文科

11月19日、昨年に引き続き、人文科主催の「国際理解セミナー」に留学生6名を派遣した。生徒の皆さんにマレーシア、ベトナム、タイの文字で実際に挨拶や簡単な表現を書いてもらうなどしながら、各国の理解を深めてもらう活動を行った。

台湾語の語学アドバイス

12月6日、ミスりんごおもりのメンバーが、台湾にて青森りんごのPRを行うための研修を行った。研修では台湾からの留学生2名が、台湾語のスピーチの内容、発音、アクセント、イントネーション等についてアドバイスした。

日本語教授法研究セミナー

日本語教授法研究セミナー 財団法人青森学術文化振興財団の助成を受け、11月6日、7日の二日間になつて、独立行政法人日本学生支援機構東京日本語教育センター日本語講師の渡部真由美先生を講師に招き、「授業デザインの考察」について、講義および模擬授業を行った。今回は特にコミュニケーション能力を向上させるために必要な教材とは何かを考え、コミュニカティブな授業デザインを考察し、実際に教材作りに取り組んだ。

青森サポーター事業

青森県フォレストフェスタ2010 in 梵珠山

10月3日、青森県緑化推進委員会
が美しい森林を次世代に引き継ぐ目
的で開催しているフェスタに留学生
20名が参加し、森のエコ活動と木や
花を使った工作を体験した。



りんご収穫体験とりんご生産者との交流会

11月3日、青森のりんごを学ぶため、りんご収穫を体験すると共に、りんご生産者からりんご作りについて話を聞いた。また、りんご選果場・CA貯蔵庫などの最新施設を見学した。



奥入瀬溪流散策とながいものすいとん作り体験

11月13日、奥入瀬溪流を散策し、青森の豊かな自然を体験した。その後、県産品として有名な“ながいも”を使ったすいとん作りにも挑戦した。



アジアからの観光客・修学旅行生の誘致活動

本学も一員である「アジアからの観光客誘致推進協議会」では、受け入れの際、留学生を語学サポーターとして派遣し、協力している。

台灣・台中福瑞社區發展協會受入事業

台湾の福祉・介護のNPO団体である福瑞社區發展協會16名を10月11日から15日まで受け入れ、南部町の達者村ホームステイ連絡協議会の農家に民泊した。



台灣・高雄市立陽明國民中學學生受入事業

1月25日から1月27日まで十和田農業体験連絡協議会の農家が受け入れ、農家体験などを体験した。留学生5名が語学サポーターとして橋渡し役を務めた。



青森中央短期大学

食物栄養学科

今年も12月4・5日の2日間にわたって、食物栄養学科2年生による特別研究発表会が行われました。35の演題がエントリーされ、今年からその発表会を一般公開しました。

発表内容は米粉の利用、野菜の保存方法、りんご果皮の利用など食品加工、調理学分野の研究や、腎不全食、ダイエット、アレルギーなど臨床栄養学分野、応用栄養、食品衛生、食育、食文化など等、多岐にわたっていました。発表資料は全てパワーポイントで作成し、年々そのプレゼンテーション能力も向上してきています。質疑応答も活発に行われ発表会全体のレベルも確実に向上しており、学生にとっても大勢の聴衆の前での発表・質疑応答は、良い経験となり今後にも必ず役立つことでしょう。



発表内容
発表資料は全てパワーポイントで作成し、年々そのプレゼンテーション能力も向上してきています。質疑応答も活発に行われ発表会全体のレベルも確実に向上しており、学生にとっても大勢の聴衆の前での発表・質疑応答は、良い経験となり今後にも必ず役立つことでしょう。

特別研究 看護研究 修了論文

看護学科

平成22年度看護研究発表会が12月2日に開催されました。発表演題数(示説)は32題(6領域)でした。講義・実習等で学んだ臨床場面における看護問題や、現代社会の医療保健問題等に対して、看護者としてどのように対応していくべきかを考察している研究が多かったと感じました。当日は、3年生はもとより1・2年生にも研究成果を示すことができ、いかに効果的な発表資料を作成することが大切かを学ぶことができました。



幼児保育学科

幼児保育学科・特別研究45テーマの研究報告は、音楽表現・造形表現・身体表現に関連するものなど多岐にわたるものでした。

テーマの多くが、指導教員とともに研究計画を練り、研究を進めたことも伝わってきました。中には、学内研究倫理審査を経て、調査研究等を踏まえ今後も研究を継続してもらいたいテーマも多くありました。また、質疑応答もとても活発で、発表者がこれまでの研究で取り組んできたことから自信を持って誠実に伝えようとする姿勢は、とても素晴らしいものがありました。

それぞれの学びを次のステップでも是非活かしてもらいたいと思います。

専攻科福祉専攻

介護福祉士の養成教育が新カリキュラムとなり2年が経過しました。ますます介護福祉士の専門性と独自性が求められるようになり、介護する者と、介護される者とが相互に変容・成長し自己実現を図らねばならず。その上で「共生」社会のバックボーンとなる諸制度の理解がなければなりません。また、人間は社会的側面、精神的側面、身体的側面の多方面から捉えることが重要です。1つの制度、1つの行為にはそれぞれ深い意味があり、それを追求して研究することは介護福祉士の専門性を養うことが重要です。専攻科生は、1つの事象にそれぞれが注目してその深い内容を研究、論文にまとめあげることができました。調査する上での倫理的配慮や、仲間との葛藤、意見の食い違いからの孤独もありましたが、修了論文の発表でその思いも報われたと思います。

優秀賞

<食物栄養学科>

おからを利用したメタボリックシンドローム対策～主食での活用～ 石川 朋実・小野 未来・三浦 綾翔

<幼児保育学科>

身近な素材でできる動くおもちゃの研究

阿部 武・高坂 大志・中島 雄斗・三上 寛平

<看護学科>

短大生におけるデートDVの実態と自尊感情に関する研究

加藤 美樹・古川 晴真・館山 志桜里・横山 優子

<専攻科福祉専攻>

知的障がい者を対象とした支援のあり方～障がい者施設における福祉的就労と就労～

中川 敏之・藤本 祥平



幼児保育学科卒業記念公演

青森中央短期大学40期生卒業記念公演が、12月4日、上演されました。今年の公演は、大型影絵「いっすんぼうし」、ミュージカル「ないたあかおに」。サブタイトル「ありがとう～あなたに伝えたい大切な言葉～」には、それぞれの演目から「仲間・友情・愛」等を伝えたいという学生たちの思いが込められていました。立ち見が出る程の来場者の方々は、一体となった学生の懸命な姿に、エールとも思える拍手で応えてくださいました。二度と無い貴重な経験を胸に刻み、大きく社会に飛び立っていくことを心から願います。

食物栄養学科



学生としての最終章を迎え、 社会人としての第1章へ

食物栄養学科2年 村上 陽菜

とにかく興味があった講義は履修するようにし、自分自身の首を絞めながらもがむしゃらに過ごした2年間はあっという間でした。大きな調理器具に弄られながら100食以上の給食を作った給食管理実習、レポートの量が尋常ではなかった講義、毎回どこか手順を間違えていた実験、板書を書くので精一杯だった臨床栄養学など、栄養士として大切なことを学べて本当に良かったです。将来は人の役に立ち、感謝されるような栄養士になるため、この学校で学んだ知識・経験を存分に発揮できるように頑張っていきたいです。

幼児保育学科



子ども達としっかり 向き合える保育士に

幼児保育学科2年 伊藤 彩翔

3月に卒業を控え、短大生活を終わようとしている今、社会へ出ることへの大きな期待と不安を感じています。学生とは違い、自分のすべての行動に対して責任を持つことが求められ、中途半端な気持ちで現場に立つことは許されません。だからこそ、一人の社会人として、また一人の保育士として、しっかりと自覚を持ち、日々の生活を充実したものにできれば良いと思います。両親や支えてくれた方への感謝の気持ちを胸に、子ども達としっかり向き合える保育士になれるよう努力していきたいです。

看護学科



在学生の皆さんへ

看護学科3年 古川 晴真

私は今、国家試験に向けてラストスパートの最中です。

入学当初は期待と不安で胸がいっぱいでした。しかし、今振り返ってみると、この3年間はとても充実していて、本当にあっという間だった気がします。講義や課題、試験など忙しい日々にも追われながらも、学校生活の中で新しく出会った仲間と共に励まし、時に良きライバルとして互いに高め合いながら、楽しい毎日を過ごすことができました。

看護学科では病院での臨地実習をはじめ、沢山の貴重な経験をし、自分自身の看護観や生死観について深く考え、悩み、そして学ぶことができました。そのおかげで、人間としても一回り成長できたと思います。これからは大学で学んだ看護師としての思いを胸に頑張ります。

在校生のみなさん、看護職は人の人生に関わっていく責任ある職業です。学ぶ姿勢を忘れず、一瞬一瞬を大切に、そして楽しく過ごして下さい。

未来へ 向かって

専攻科福祉専攻



内定を頂いて

専攻科福祉専攻 高橋 佑香

私は生まれ育った秋田での就職を望み、就職活動を行いました。介護職の就職試験がどのようなものであるかわからなかったため、キャリア支援センターで報告書を見て方針などを学び、授業や実習から学んだことと、自分の考えを整理するなどして、不安をなくするように準備に努めました。

試験内容に履歴書の提出や、小論文、面接があったため小論文の添削も受け本番に備えました。やはり試験は緊張しましたが、事前に準備していたこともあり、自分の考えを述べることができました。おかげで内定を頂きましたが、今後は、介護の知識をより深め、学んだことを忘れないように復習し、積極的に仕事ができるようにしたいと思います。

管理栄養士国家試験対策基礎講座を受講して

原田 真由美（食物栄養学科29期生）

私は短大卒業後、一般企業に就職しました。その後転職し、栄養士の実務経験を積み、去年初めて管理栄養士の国家試験を受験しました。しかし、結果は不合格で、いろいろ煮詰まっていたところ、職場に講座の案内が届き、本講座を受講しました。

1年間ほぼ独学で参考書を頼りに勉強していたので、講義形式は新鮮で、よい刺激になりました。受講料が無料なのもありがたかったです。

計4回の講座では試験出題範囲全てを網羅する事はできませんが、同じ目標に向かって頑張っている卒業生の方々と、一緒に受講できて良かったです。まだ受験しようか悩んでいる人には丁度良い内容だと思いました。

【在校生の皆さんへ・・・】

私は現在、病院給食の栄養士として働いています。業務内容には、患者様の食事相談など、専門性を重視した難しいものもあります。その度に管理栄養士さんに相談したり、専門書を読んだり、インターネットで調べたりと勉強不足を補ってきました。国家試験用の勉強を始めると、今まで不鮮明だった内容が分かり、仕事にも役立っています。

仕事をしながらの試験勉強は体力的にも精神的にも大変ですが、とにかく、勉強時間の確保が重要です。卒業後、栄養士として働き、いずれは管理栄養士の資格を取りたいと思っている方は、就職1年目は社会人として仕事に慣れることで精一杯でしょうから、2年目からでもこつこつ試験勉強することをお勧めします。実務経験3年の期間は意外と短いです。

過去の試験問題を解くのも大事ですが、基本が分からないと応用が利きません。自分にあった参考書を見つけることが近道でしょう。国家試験経験者からのアドバイスです。

青森県読書推進大会ボランティアで得たもの

幼児保育学科1年 白浜 綾乃

私は去年の11月21日に、青森県立図書館で行われた「子ども読書推進大会」の中で、青森県生涯学習課の秋田敏博先生のご指導のもと、絵本の読み聞かせをさせていただきました。

お話会には子どもから大人までたくさんの方が来てくれました。私は『わかるかな？頭からつま先まで』という絵本を読み、ひとりで練習するのと実際に人前に出て読むのとではこんなに違いがあるものかと感じました。自分が

読む絵本を真剣に聞く子ども達や大人を見て、更に絵本を読む技術を磨き、またこのような場で絵本を読みたいと思いました。

この活動を通して、絵本への関心が高まり、更に読み聞かせのサークル結成への夢が膨らみました



読み聞かせサークル発足！

「読み聞かせサークル」が新年度より本格的に活動開始となります。読み聞かせボランティアに参加した学生達から「読み聞かせサークルを立ち上げたい！」との力強い声上がり、準備を進めてきました。絵本の持つ多くの魅力を子どもたちに発信し、また、子どもの感性に訴える読み聞かせの技術向上のため、意欲的に活動していきたいと学生達も意気込んでいます。

絵本の読み聞かせという小さな小さな活動が、未来ある子ども達の豊かな感性を育み、美しい言葉や、生きる力へと働きかける愛に溢れた活動になりますように、日々楽しく活動して参ります。



クリスマス親子クッキング

今年の公開講座は「キャラクターのパーティ料理を作ろう！」をテーマに、親子合計39名が参加しました。子どもたちは動物のキャラクターをモチーフにしたカナッペや、ドーナツで作るツリーなど、楽しみながらも真剣な表情で作っていました。参加者の方からは、「子どもと楽しく作ることができました」「これからはいろいろな料理に挑戦します」とのコメントがあり、親子で楽しんでもらえたようです。来年度も親子で楽しく・おいしく作ることができる講座を企画しています。この講座への参加ををきっかけに、誰かと一緒に料理をしたり食べたりすることは楽しいと感じてもらえたらいいと思っています。



「ぜ～んぶあおもり大農林水産祭」参加

11月13日・14日の両日にわたり青森市産業会館で開催された、「ぜ～んぶあおもり大農林水産祭」において食育啓発活動を行いました。

私達は身近な郷土料理をテーマにした寸劇を行いました。事前準備の段階では「どうやって見ている人にうまく伝えることができるのか」ということに重点を置き、劇で使用する小物や原稿を作成しました。実際にステージで発表してみると、思った以上に伝えたい内容を伝える事は難しく、とても苦戦しました。

しかし、広いステージで発表するという貴重な経験と、初めての試みだった寸劇をやった達成感を味わうことができました。これからもこのような活動に積極的に参加し、今回の活動で学んだことを生かし、より良い活動をしていきたいです。

(食物栄養学科1年 沖口 大貴)



食育講演会開催

12月5日、講師にしょくスポーツ代表のこばたてるみ氏をお招きし、本学学生・食育関係者・一般を対象とした食育講演会が『新しい食育を考えよう』というテーマで開催された。

普段、本学の学生はスポーツ栄養という分野に触れる機会が少なかったため、講演後の反響は予想以上に大きく、将来、栄養士としての進路を考えていく上で、非常に貴重な経験となったようだ。

今後も今回の講演会のように、本学学生及び食育関係者にとって新たな刺激となるような企画を打ち出していきたい。



独立行政法人 国際協力機構(JICA)研修 フィリピン母子保健実施管理コース受入

11月11日～24日までの約2週間、フィリピンより研修員16名の受け入れを行い、JICA担当者の方々、通訳コーディネーター、本学看護学科の先生方からの協力を得て、無事に終えることができました。フィリピンの医療は、まだまだ発展段階にあり、大きな都市に比べて小さい市町村は交通機関が整っておらず医師、看護師が不足しており、自宅出産者の数がいまだ多いのが現状のようです。そのため、母子の健康を維持することが重要な課題となっています。

研修員たちは特に日本における乳幼児健診制度や、各都道府県や地域で発行されている健診用のチケットに大変興味を持ち、フィリピンでもこのような制度を作りたいと熱心に講義を受けていました。研修員からはフィリピンに知識を持ち帰り、自国をより良い国にしたいという気持ちがとてもよく伝わってきて感銘を受けました。このような機会がまたあるようでしたら、未来を担う若い世代の方たちに協力ができたらと思います。



平成5年度海外技術研修員の短大訪問



青森県が自国の発展に必要な技術を学んでもらうため、毎年海外から技術研修員として受け入れている「青森県海外技術研修員受入事業」において、青森中央短期大学幼児教育学科が平成5年度に受け入れた孫立燕さん（中国）が、17年ぶりに母校を訪ねて来てくれました。

【孫さんコメント】

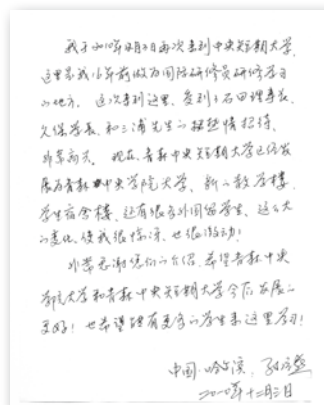
16年前に私は海外技術研修員として青森中央短期大学にお世話になりました。本日再びに研修場所を訪れることができ、とても嬉しかったです。さらに、石田理事長・久保学長様及び国際交流センターの三浦さんに温かい出迎えをしていただき、心からお礼を申し上げます。

大学では新しい教育施設が立てられ、学生の寮も充実し、外国人留学生もたくさん頑張っています、大学が大きく発展していることがはっきりとわかり、とても感動しました。

青森中央短期大学及び青森中央学院大学がさらに発展するよう、心からお祈りいたします。今日は本当に大変お世話になりました。

中国・ハルビン 孫立燕

2010年12月3日



孫さん原文

平成22年度 AO入学前サポートプログラム

去る10月30日に第1回のスクーリングが開催された。

本サポートプログラムは、学習の継続性と入学準備を目的に、平成18年度より本学でのスクーリングと家で行う通信課題で展開している。第5回目となる本年度の、3学科共通のテーマは「読解力」である。論理的に思考する力だけでなく、自分の考えを論理的に表現する力を育て、人間関係やコミュニケーションにつなげていきたいと考えている。

第1回目は、オリエンテーション、AO合格者どうしの自己紹介、本入試で入学した各学科の在校生によるパネルフォーラム「学生生活について」、在校生との触れ合いを行い、本プログラムの目的理解を図った。続く第2回目は、2月5日に行われ、文章理解についてのプログラムを行った。第3回は3月26日に行われる。



白取春彦氏による公開授業「人間と倫理」

今年度の大ベストセラー「超訳ニッポンの言葉」編訳者・白取春彦先生による講義、「人間と倫理」を開講しました。白取先生は、ベルリン自由大学で哲学・宗教・文学を学び、帰国後著述業に専念し、哲学や宗教を中心として多数の書籍を著しており、それぞれの解説書の明快さには定評があります。

今回の授業は、公開授業として学生だけではなく一般の聴講生も受け入れ、最年長90歳の受講生をはじめ、様々な世代の方が参加しました。授業の中では、「善と悪の区別」、「幸福とは何か」など、各回のテーマについて白取先生の講義に対して受講者と議論しながら、まさに青森中央短大白熱教室を展開していました。





附属第一・第二・第三幼稚園

浦町保育園

中央文化保育園

—— 心も体も大きな成長を成し遂げました ——

<感動的なお遊戯会>



ニコちゃんマークを衣装に付けて可愛い3才児が楽しく踊ったよ。



月に帰ってはいけないとかぐや姫を必死に止める5人の侍たち(4才)。



不思議の国のアリスでわがままな女王様をなだめている王様(5才)。

<ケーキやおもちを作る体験>



ケーキのお家を作ったよ。



おもちを丸めて食べたよ。



高校生のお姉さんとみの虫を作ったよ。

<施設の見学で働いている人の大変さが分かりました>



【水族館見学】

大きな水槽のお魚さん達楽しそうだね。イルカショーも楽しく見物したよ。



【図書館見学】

沢山の人が利用しているね。私達も気持ちよく読書できたよ。



【消防署見学】

消防署の人になってかっこよく敬礼しました。

<サンタさんからお土産もらって嬉しかったよ>



幼稚園にサンタさんやってきたよ。



サンタさんお土産たくさんありがとう。

<ハロウィン誕生会>



トリック オア トリート! 変身してお部屋をまわり、お菓子をもらったよ。

先生達活躍しています ～調理員編～

－「今日はなぁに？」に支えられて－

中央文化保育園 松本 尚子



「今日の給食はなぁに？おやつは？」朝、子供達の元気な声で1日が始まります。中央文化保育園に勤めて4年、園児のみんなから多くのことを気付かされる毎日です。

給食室の窓際から顔を覗かせる子供達はだしの香りをかいだり、食材の名前を覚えたり、時には苦手なものに顔をしかめ、好きなものがあると満面の笑顔をと、本当にたくさんの「食への興味」を示してくれます。魚や肉料理（主菜）の献立を知ると、「じゃあお野菜（副菜）は？お味噌汁の具は？」と、一汁三菜の心も徐々に根付いてくれている様で頼もしく感じています。

栄養価や安心・安全はもちろんのこと、毎日みんなと交わす会話や聞こえてくるかわいいつぶやきを大切に、献立やおたよりを作成し、調理したいと思います。

小学校に行っても給食を残さず食べられる様に…園児の成長を見守ることの出来るやりがいのある仕事に見合う自分であるために、栄養士として、人として、成長していきたいと思っています。

－「おいしい」のひとつに元気をもらっています－

附属第一幼稚園
三上 舞



附属第一幼稚園へ勤務し、二年が経とうとしています。

初めの頃は給食を作り終えることで精一杯でしたが、だんだん仕事にも慣れて、今では子ども達に喜んでもらえるような給食を一食でも多く作るにはどうしたら良いのかを考え仕事に取り組んでいます。給食時に時々各クラスを回り、子ども達の食べ具合や残食状況などをチェックしますが、「とってもおいしいよ」と完食している時は、本当に嬉しいです。逆に残食がある時は、彩り・味付け・量などどこが良くなかったのかを反省し、その後の給食で改善できるようにと思っています。

何より子ども達が元気に健康でいられるためのサポートとなっていれば、とても有り難いです。これからも子ども達から笑顔と元気をもらい、給食を作っていきたいと思っています。

－やりがいのある仕事－

浦町保育園 千葉 望美



浦町保育園の調理員として勤務して、もうすぐ2年になります。

初めの頃は離乳食や年齢ごとの味付け・

材料の切り方についての知識、また大量調理の経験が少なかったため、思うように動けない日々を送っていました。しかし、現在ではいろんな経験を積みながら、周りのリズムにも付いていけるようになり、充実した毎日を送ることが出来ています。その中でも子どもの存在は大きく、「おいしかったよ」という言葉は何よりも励みになります。そしてまた明日からもおいしい給食を作ろうという意欲や仕事に対するやりがいにもつながっています。最近では子ども達がよく給食室に来ては「今日の給食は何？」とニコニコとした顔で尋ねてきます。これからは給食を通じて食育活動につなげられるように努めていきたいです。

お子さんの興味を助長するための教室紹介

<そろばん教室合同学習会>



幼児期にそろばんにかかわる機会に恵まれた子どもたちは、きっと成長したいいずれかの時にそろばんをやっている良かったと思う時が来ると信じています。附属幼稚園では、4歳から希望する子どもさんはそろばん教室に入ることができます。



今年は、12月に弾き納めとして、そろばんを始めたばかりの子どもから、小学生で1級を受験する子どもまで72名が一同に集まり、合同学習会が行われました。それぞれのレベルに応じた問題が出され、真剣にそろばんの珠をはじいていました。そろばんの後にはみんなでゲームをやり、最後に成績発表を行いました。

<英会話教室>

英会話教室を開設して20年目を迎えました。在園児（年長）と卒園児（小学生）の希望者に、バーニ先生が本場の英語の発音で、耳から聴かせて指導しています。少人数指導ですから、マンツーマンの英会話指導となり、子どもたちは楽しみながら学ぶことができます。

英会話教室で週1回1時間のレッスンを受ける事で、感覚が研ぎ澄まされ、次第に興味関心が深まります。

夏休みは三沢ベースの子どもたちと交流し、生きた英語に触れ慣れ親しんでいます。英語を聴きなれている子どもたちは、外国人同士の会話に触れながら、遊ぶことが出来るまでに成長します。



一心の豊かさと健康な体づくりのために

<絵本の読み聞かせ講座の実施>

本学図書館主催の読み聞かせ講座と、附属第一幼稚園父母と教師の会の研修会が一緒となり、保護者と園児対象に絵本の読み聞かせが行われました。読み聞かせを通して、親子の交流や絵本との出会いを広げることが目的です。当日は、40数名の保護者と



100名の園児が、講師の先生の緩急つけた読み方に一緒に体を揺らしたりしながら夢中になり、とても楽しそうに聴き入っていました。

<お米大使がやってきた>

12月2日、附属第三幼稚園にお米大使（ピカピカくん、あおちゃん、もりくん）がやってきて、「親子おにぎり教室」が開かれました。園児たちは踊ったり歌ったりクイズをしたりで大喜び。その後、お母さんといっしょに、青森米でおにぎりづくり。まずは塩だけのおにぎりをちょっとお味見。「お米だけでも、こんなにおいしいの？」とびっくりしました。それから、具やトッピングをいろいろ工夫して、たくさんのおにぎりをギュッギュ。「上手にできたね」「おいしくていっぱい食べたよ」。新米と同じく、みんなの笑顔もびびかに輝いた一日でした。



青森中央文化専門学校／青森中央経理専門学校

医療事務コース 看護学科連携授業&職場実習

青森中央経理専門学校では、授業で学んだ専門知識をより高めるため、青森中央短期大学看護学科との連携授業や職場実習を行い、専門職として必要な知識、技術、コミュニケーション力を育成しています。

職場実習 体験記



私は病院の総合窓口での職場実習を体験させて頂きました。実習を通して強く感じたことは、病院の方たちはみんな明るくて笑顔が素敵だということです。体験中、いろいろな患者さんがいて大変だということもありましたが、総合窓口担当の方は、いつも笑顔で楽しそうに仕事をしていたので、笑顔の大切さを再認識しました。

病院では看護師や医師との連携が大切だと感じました。授業で学んだ診療科ごとの算定方法の違いも体感できて、授業の知識と仕事が繋がりました。また、実際の医療事務業務以外にも、挨拶、先輩を敬う心など、大事なお話をたくさん聞くことができました。今回の体験を仕事だけでなく、これからの人生にも役立てていきたいと思います。

職場実習で学んだ事や聞いた事を活かし、医療現場の戦力になる様頑張ります。

(青森中央経理専門学校 八戸 早紀)

内定者インタビュー 三和会附属歯科クリニック



私は2年間の医療事務の授業で、青森中央短期大学看護学科との連携授業では、人体のしくみや実際に医療機関で使われている機材・機具を手にとって学ぶことができました。

また、職場実習を通して「病院の顔」と言われる医療事務員には挨拶と笑顔が一番大切なことで、病院の第一印象が決まるという、今後の自分にとって大事なことを聞くことができました。卒業後は笑顔で患者さんを迎えられる医療事務員として頑張ります。

(青森中央経理専門学校 工藤 綾乃)



卒業発表

青森中央経理専門学校では、2月9日卒業制作発表会を開催しました。

2年間の集大成として、経理事務コースの学生はエコポイントの現状、所得税の概念など、医療事務コースの学生は高額療養費制度やジェネリック医薬品についてなど、学んだ専門知識を更に追求した内容の発表を行いました。



国内旅行業務取扱管理者講座開催

青森中央経理専門学校では、旅行会社の支店・営業所の責任者や旅行業務を取り扱うことができる人材の育成を目指し、国内旅行業務取扱管理者試験対策講座を開催しています。

旅行業界唯一の国家資格であり、就職・転職に非常に有利な資格で、受講生は9月の試験を目標に、旅行業法施行規則など関連知識を学んでいます。

簿記検定試験対策講座開催

青森中央経理専門学校では、日本商工会議所主催簿記検定に向け、試験対策講座を開催しました。

企業の経理・会計担当者や公認会計士や税理士等の国家資格を目指す学生が、企業の経営成績と財政状態を明らかにするだけでなく、財務諸表を読む力やビジネスの基本であるコスト感覚を身に付け、社会人として役立つ講座となりました。

成人式／テーブルマナー／初釜の会

青森中央経理専門学校、青森中央文化専門学校では、1月17日ウェディングプラザアラスカにおいて、成人式を行いました。新成人を代表して、青森中央経理専門学校の川島菜都子さんが、社会人としての自覚をしっかりと持ち、決して夢をあきらめないで果敢に挑戦したいと抱負を述べました。

また、生活文化セミナーの一環として、洋食の会食マナー、茶道の作法を体験し、教養を深めました。テーブルマナーでは、社会人としての食事マナーやメニューの構成、バッグ類の扱い方等を学びました。

新春を迎え初めてかける釜で行う初釜の会では、青森中央文化専門学校の学生はお点前を披露し、青森中央経理専門学校の学生はお点前を拝見してお茶を頂き、日本の伝統文化に触れることができました。



Bunka Fashion Live 2010

青森中央文化専門学校では12月18日アウガにて『Bunka Fashion Live 2010』を開催しました。

今年度はテーマ「loop」～未来（アナタ）のために創る服～と題し、ターゲットを決め、自分以外の誰かのために考案したオリジナル作品を発表しました。

卒業制作作品の他、ピンクリボン（乳がん啓発）を呼びかけるためピンクリボンのイメージを取り入れたオリジナルファッションを制作しました。また、産学連携の取り組みとして、アウガ、メゾンで販売している最新ファッションスタイリングショー

やファッション甲子園2010入賞作品・デザイン画展示を行いました。

今回のショーは青森中央経理専門学校の学生を始め、青森中央学院大学、青森中央短期大学の学生・留学生の皆さんや高校生モデルの皆さんにご協力頂き、人と人との繋がりを改めて意識する内容となりました。

日頃の学習成果を発表し、更なる意欲と自信へ繋げることが出来ました。



青森中央文化専門学校 櫻庭せつ子名誉校長 「瑞宝単光章」受章

平成22年度「秋の叙勲」において、青森中央文化専門学校 櫻庭せつ子名誉校長が、教育・研究の成果が評価され、「瑞宝単光章」を受章しました。

この度の受章を受け、12月18日、青森国際ホテルにて、櫻庭名誉校長を祝う会が行われ、歴任教職員・卒業生が喜びを分かちあいました。学生たちも「青森中央文化専門学校の学生であることに誇りを持ち、更なる向上心を持って今後も勉学に励みたい」と誓い、心より喜びました。



櫻庭せつ子名誉校長

長島市民ギャラリー展示

青森中央文化専門学校では1月13日～31日、長島市民ギャラリーで制作作品の展示を行いました。

日頃学んでいるファッション販売のビジュアルプレゼンテーションテクニック実践の場として、制作衣装22点をディスプレイしました。

卒業生 PICK UP No.13

株式会社 ポイント
青森中央文化専門学校 平成16年度卒業
今 遥香

私は、専門学校で学んだファッションビジネスや販売の知識、資格を活かし、ローリーズファームでファッションアドバイザーとして経験を積んでいます。接客は大変だともありますが、お客様との信頼関係や笑顔に支えられて自分の仕事の重要さを感じています。

毎日、自分の好きな服や小物に囲まれて、仕事ができることが幸せだと感じますし、自分と同じように、お客様を元気にできる様なスタイリングを心掛けています。服だけでなく、小物をプラスすることで自分だけではできないスタイリングにチェンジすることができる、ファッションアドバイザーの仕事を誇りに思います。これからもお客様に満足していただけるよう頑張ります。

在校生の皆さんも、多くの知識を吸収して経験を積み、同じファッション業界でプロ意識を持ち頑張りたいと思います。





司法の世界に関心を向けて

青森中央学院大学 経営法学部3年
高 谷 温 子

大学3年の冬ということで、学生生活も残りわずかとなってきました。そして最近、その残りの貴重な時間をどう使うか考えた結果、「学生時代にしか出来ないことをしよう」という結論に至りました。それが「裁判傍聴」です。所属しているサークルがきっかけとなったのですが、今では時間を見つけては、サークル外でもふらっと裁判所に足を運んでいます。初めは被告人が手錠や腰紐で拘束されている姿を目の当たりにして身が凍ってしまいました。しかし、社会の悲しい部分を見ることによって、自分の考え方や甘えを見直すことができ、いかに犯罪が近いものか感じられます。

私のおすすめとしては裁判傍聴ですが、みなさんも学生時代にしか出来ないことをしてみたいはいかがでしょう？



私のこの1年

青森中央短期大学 食物栄養学科1年
後 藤 史 織

入学当初は、地元を離れ大学生活がうまく送れるか不安でした。高校でも化学の授業の機会がなかったので、ほとんど専門知識が無い状況で入学し、勉強に追われる1年でした。しかし、学園祭などの行事を通して友達とも仲良くなれたし、環境にも慣れたので、不安も少しずつ減ってきました。

大学ならではの専門的な授業を経て、最初は難しかった献立作成や、栄養計算などが、入学当初では考えられないほど上達しました。今後は、実習などで経験したことを、就職先などで生かせるようさらに頑張っていきたいと思います。



人に寄り添う～実習を終えて～

青森中央短期大学 看護学科1年
前 田 一 葉

1年間、看護について様々な方面からの学びを得た。その中で私が常に考えさせられていることは、「看護の対象は人である」ということだ。

先日、病院において基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習を終えた。実習で初めて受け持ち患者さんと対面した時、私は戸惑った。私自身がこの方に対し、何をしたらよいのか全く見えてこなかったからだ。私はただ患者さんの隣に座り話をした。私はそのとき、人と関わることはこんなにも難しいことなのかと感じていた。しかし同時に、関わりの中で患者さんが必要としているもの、私がすべき事が自分なりの解決ではあるが徐々に見えてくる感覚を覚えた。

私は実習を通し、改めて看護の対象が人であることを強く感じた。患者さんとのコミュニケーションを大切に、次回からの実習につなげていきたい。



敢為邁往を目指して

青森中央文化専門学校
荒 内 真 美

服飾科に入学して一年、行事やイベントに向けての作品づくりや準備活動で今までになかった経験を、大変な事や思うようにならないことにたくさんぶつかりました。悩むこともありました、その分多くの事を学んだり得ることができ、服飾を学ぶものとしても人としても成長できたと思います。

また、先生方や先輩方、周りの人たちの助けや支えがあった作品やショーがより良いものになりました。

今年は更に知識を深め、技術を向上させながら自分にしか作れないものを作り、何事にも積極的に挑戦していきたいと思っています。

G20首脳会合インターン記者として

青森中央学院大学 経営法学部4年
田 鍾 賢



去年10月、私は韓国最大の新聞社である朝鮮日報でG20首脳会合のインターン記者として7週間活動しました。インターン記者の仕事は、G20参加国のメディアとの提携、高官へのG20に関するインタビュー活動、そして朝鮮日報で推進した社会貢献フォーラムに、著名な方々を招待することでした。日本を担当した私は、G20に関する仕事で毎日新聞社との提携、G20に関する記事を共有して翻訳したり、菅直人総理や日本銀行総裁などにインタビューをしました。そして社会貢献フォーラムに関する仕事では、日本の大企業の社長に出席をお願いする仕事をしましたが、なかなか難しく大変でした。

今回G20のインターン記者という滅多に経験できない実務や社会生活などを実際に体験したことは、自分の人生に大きな影響をもたらしました。将来私が仕事に就いた時、どんな仕事をどのようにうまくできるか、大きなヒントを得ました。本当に私の人生を変えた経験でした。

1年を振り返って

青森中央短期大学
幼児保育学科1年
小 野 竜 治



私は今年1年を振り返り、一文字の漢字に表してみると、「楽」という漢字が思い浮かぶ。入学した当初は、私自身人見知りということもあり、他の人と上手くやっていけるか不安であった。しかし、良き仲間巡り会うことができ、不安も徐々に吹き飛んでいった。

運動会では、クラスが一つになり、学園祭のダンスや造形、演奏等で更に絆が深まっていった。時には課題や困難もあったが、仲間の結束で乗り切ることができた。初めての教育実習でも、様々なことを学ぶことができ、とても楽しく、充実した1年であったことに深く感謝している。

1年を振り返って

青森中央短期大学 専攻科福祉専攻
牧 野 紀 仁



私が専攻科福祉専攻に入学してからあっという間に1年が過ぎてしまいました。思い返せば、毎日の授業だけでなく施設実習や、たくさんの方々に参加することで、時間がとても早く過ぎてしまったように感じます。「介護」という分野はとても奥が深く、一朝一夕では習得することは難しいと思います。しかし、この1年で様々なことを学び、自分の将来についてもっと明確に考えることが出来、自分自身の成長を強く感じました。

チャレンジの1年

青森中央経理専門学校
飯 村 洋 史



私はこの1年で、初めて簿記を学び、難しいと感じることもありましたが、少数人数制による個別指導で、少しずつ理解を深めることができました。また、副会長に立候補したり、検定を積極的に受けたり、以前から興味があった観光について学ぶことができました。

入学時は初対面で口数も少なく、なかなか打ち解けることができなかった同期の皆とも、会長が中心となって話をするようになり、明るく個性的な友人と優しい先輩に恵まれ、年齢の壁なく、楽しく充実したキャンパスライフを過ごしています。これらの経験を更なる飛躍に繋げ、就職活動に活かしたいと思っています。

編 集 委 員

編 集 長 加藤 澄 編集委員 中村實枝子 牧野 晴子 坪谷 輝子 中田 尋美